

サーカー 進化の理論

人間存在は、物的側面、知的心理的側面、スピリチュアリティな側面の三つをもっています。物的側面での進歩とは、交通の発達に例をとれば、自転車、自動車、飛行機、ロケットとなります。サーカーはこの側面での進歩を支持しますが、人間の幸福の見地からは物的進歩は相殺されてプラス、マイナスゼロとなると考えます。また知的側面でも進歩はマイナスを含んでいます。知的発達を遂げた人ほど精神の病の確立が高くなり、この側面でも進歩は相殺されると考えます。サーカーは、物的側面、知的側面の進歩の必要性を認めますが、上記のような限界をもっていると考え、無限につながるスピリットの領域にこそマイナス面のない進歩があると考えます。

サーカー 進化の理論 (文責 吉見)

人間存在は、物的側面、知的心理的側面、スピリチュアリティな側面の三つをもっています。

物的側面での進歩とは、交通の発達に例をとれば、自転車、自動車、飛行機、ロケットとなります。歩いたり、自転車に乗っていて死者がでることはめったにありませんが、自動車、飛行機、ロケットと発達すれば発達するほど、事故の再の被害が大きくなります。

だから進歩は相殺されてプラス、マイナスゼロになります。サーカーは、だからといって進歩をやめよとは言いません。むしろ事故が生じないようなさらなる研究や適した社会システムへとさらなる進歩をとげるしかないという考えです。この物的側面で私たちは技術の発達による生産力の発達を見ます。社会構造の発達をみます。サーカーはそれらの発達を否定するのではなく、人類のために役立つように絶えざるを集合的努力が必要だと考えます。発達した科学技術を人々に恩恵をもたらすように用いず、既得権益をもつグループが他の人々を搾取 (exploit 利用) することを許さないように人々の反搾取の意識を高め、永続的な反搾取の集合的闘争が必要だと考えます。

知的領域でも進歩はマイナスを含んでいます。知的発達を遂げた人ほど精神の病の確立が高くなります。サーカーの言うスピリチュアリティは、心の枠を超えて、このコスモスの無限大に合致させるところまで、自らの心の拡張をめざすことを言います。毎日朝晩二回簡単な瞑想とヨガをすることが、そのレッスンになると考えます。

サーカーの言葉です。

「真の意味で進歩とは何でしょうか。普通、人々は進歩という言葉で科学的進歩を連想します。しかし、実際には、科学的進歩は、真の進歩でもありうるし、そうでない場合もありえます。進歩の本質はシュブハに向かう運動です。人間は三層の中に存在しています。すなわち物的身体的な側面と知的心理的な側面と精神性 spiritual の側面です。

進歩の本質はシュブハに向かう運動です。この三つの分野すべてに運動があります。そ

れゆえ、すべての三つの領域に進歩がありえます。しかし、ここでの考察は、主として何が運動の目標であるのかということです。言い換えれば、何が人生で最高に善いことなのかということです。シュブハからパラマ・シュブハへ導く運動が進歩です。

物的身体的領域で普通に使われている進歩という言葉がどんな意味で使われているか確かめてみましょう。人々は、牛車のかわりに自動車、自動車にかわって飛行機、そして飛行機にかわってロケットを使うようになることが進歩であると考えています。・ ・

このような快樂は必ずしも物的身体的領域に限られるものではありません。それは知的心理的な領域や精神性の領域でも利用することができます。誰がそれを享受する主体なのでしょう。それは心です。心は、知的喜びとともに身体的喜びを経験します。精神性の幸福の体験は、心理・精神的 psycho-spiritual なのもので、それも一部分は心が享受します。

すべての喜びの体験が心 mind を通じたものであるとすると、喜びは心の振動領域の内側に生まれるということになります。だから進歩は振動の原理を越えて進むことはありえません。この宇宙のすべての存在は振動しています。それゆえ、物的身体的幸福感と知的幸福感は、どちらも心によって享受されていますが、どちらも振動です。振動の場は、肯定、否定などのように二つの対立面のバランスによって平衡と均衡が維持されています。別の言い方では、不幸と幸福は比例して増大するということになります。だから、身体的物質的階層、すなわちいわゆる「科学的進歩」においては、幸福と不幸が同じ程度に出てきます。牛車に代わって自動車を用いることは、身体にはより大きな快適さを伴いますが、同時に、事故になるとより大きな危険性をはらみます。飛行機の使用も旅行の快適さを増大させているけれども、それにほぼ比例して危険性も増大させています。このように私たちは、物的身体的領域では、物質的喜びの享受は苦痛という否定的側面によって中和されていることに気がつきます。」

知的領域に関しては次のように述べています。

「このように心の領域に関するかぎり、そこには進歩がないことに気づきます。たとえば、インドの人々が、千年前は、現在と比較して、知的に遅れていたということは本当かもしれません。現在のインドの住民が享受しているような同じ心の喜びを彼らは入手できません。しかし、今日の人々がこうむっている心の苦悩は過去にはそれほど鋭くなかったこともまた事実です。このようにすべてのプラスとマイナスを考慮すると、心の領域になんらの進歩もありえないことに気づきます。」

「物的身体的領域と知識領域では真の進歩はないと述べてきました。したがって、この領域でのすべての努力はやめるべきでしょうか。物的身体的な科学を発達させる努力は無駄でしょうか。否、その努力をやめるべきではありません。私たちはこの分野でも努力をし

続けるべきです。しかし、私たちは、人間の社会、人間の心、人間の身体に対するそのような努力の影響については注意深くあることが必要です。物的身体的領域における「進歩」におきることは、生活 life の速さが、神経に影響するより速い勢いを得ることです。神経に対する影響は、頭蓋の機能を増大させます。そしてそれは感情 heart の弱体化をもたらします。当然の帰結として 物的身体的科学が物的身体的進歩に比例して、感情と心の病は同じ割合で増大するでしょう。

いわゆる多くの文明化した人々が、神経が緊張下にあるために眠ることができないということが注目されるようになってきました。200 年前に致命的であると考えられた病気はもはや現在では致命的ではありません。それらは今日では普通の病気になっています。現在の致命的な病気は、ほとんど感情と神経に関連しています。将来、人類の物的身体的構造は、これらの要素に影響されるでしょう。」

「知的分野における進歩は、情緒 emotions の大きな不調和をもたらします。そしてそれゆえ狂気 insanity. を増やすことになります。そして社会に狂った mad 人々が著しく増えます。このことから知的進歩は、進歩ではないことがより明確です。真の進歩は唯一、精神性にあります。精神性の領域においては反作用の潜在力がないために、そこには妨げがなく、前進運動があるのみです。これが真の進歩の性質である。

精神性の進歩は、しっかりとした物的身体的な基盤と知的心理的な基盤においてのみ達成できます。それゆえ、この物的身体的基盤と知的心理的基盤が、時代と場所の変化の状況に応じて調整されなければなりません。精神性の向上をめざすものは、物的身体的領域における反作用の潜在力から自分を守る方法を工夫しなければなりません。」

(「真の進歩のための人間的探究 HUMAN SEARCH FOR REAL PROGRESS」より)